各　　位

2026 年 11 月 27 日
株式会社インプレス

ウルトラマンティガ登場 30 周年を記念したメモリアル写真集『ウルトラマンティガ 30th Anniversary Memorial Photo Book』を 2026 年 11 月 27 日（金）に発売

インプレスグループでIT・デザイン関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、ウルトラマンシリーズの人気キャラクターの登場30周年を記念した写真集『ウルトラマンティガ 30th Anniversary Memorial Photo Book』を2026年11月27日（金）に発売いたします。



■ティガ30周年の歴史を刻んだ特別なメモリアル写真集

1996年9月7日から全52話にわたり放送され、現在も高い人気を誇る『ウルトラマンティガ』。放送開始から30周年を迎えるにあたり、特別なメモリアル写真集を刊行します。 撮影は、ウルトラヒーローを撮り続ける写真家・中西 学氏が担当。30周年にふさわしく、Special Galleryを中心に、キャラクター紹介や特別インタビュー、全52話のストーリー解説など、ファンの期待に応える充実した内容を盛り込んでいます。

■撮り下ろし写真からデザイナー特別インタビューまでを収録

Special Galleryでは、円谷プロダクション監修のもと、劇中の名シーンをモチーフに、ティガのマルチタイプ、スカイタイプ、パワータイプの3形態に加え、イーヴィルティガを新たに撮り下ろしています。 また、エピソード紹介では、全52話のダイジェストを当時の場面写真とともに振り返ります。 さらに特別インタビューには、本作のデザイン画を担当された丸山浩氏にご登場いただき、デザインに込めた思いや制作時のエピソードなどを語っていただきました。 30周年だからこそ実現した、特別な1冊に仕上がっています。

■本書は以下のような方におすすめです

- ウルトラマンティガが好きな方
- ウルトラヒーローが好きな方
- 円谷作品が好きな方
- 特撮ヒーローが好きな方

■紙面イメージ







劇中の名シーンをモチーフに撮り下ろした作品を多数収録しています。



当時の場面写真とともに全52話を振り返ります。



SPECIAL INTERVIEW

光を描いたもの

丸山 浩 キャラクターデザイン

Hiroshi Maruyama

『ウルトラマンティガ』にキャラクターデザインとして参加した丸山 浩は、平成ウルトラマンシリーズで数多くのウルトラヒーローや怪獣を創造し、新たなウルトラマン像を築き上げたデザイナー。30年の時を経た「ティガ」への想いを語っていただいた。

profile まるやま・ひろし

1962年3月21日生まれ。宮崎県出身。1992年に円谷プロダクションに入社。キャラクターショーのコーディネーター、「ウルトラマンフェスティバル」などのイベント構成の業務を経験。「ウルトラマンネオス」のパイロット版（95年）や「ウルトラマンネオス ウルトラセブン21」のデザインをデザインすることから、「ウルトラマンティガ」（96年）の企画会議から上げからデザイナーとして参加。その後の作品にウルトラアニメ「ウルトラスペクトル」（00～16年）、特撮ドラマ「超獣ウォーターウィザード」（12年）、映画「ウルトラマン ユニバース」（20年）など。

聞き手＝佐久間雅大

見る角度で印象が変わるウルトラマンに

――ウルトラマン生誕30周年記念作である『ウルトラマンティガ』が、今年で30周年を迎えました。まずはその心境からお聞かせください。

丸山 ウルトラマンの60周年と比べたら半分ではありますが、もう30年経ったのかという驚きはあります。当時は30周年を迎えられるなんて考えていなくて、「ひょっとしたら30年後に円谷プロはもうないかもしれない」と冗談を言っていたくらいでしたから（笑）。デザイナーとしては、ティガが単なる30年前のキャラクターではなくて、現在の子どもたち、かつて子どもだったお父さんたちの中で、今も新しい存在として生き続けてくれているということが一番うれしいですね。デザインしたキャラクターは、完成した瞬間にデザイナーの手を離れて、その後は作品を見てくださる方の思い出や想像力によって、さらに新しい意味を持っていくものだと思うので。30年という時間が経って、あらためてそのことを実感しています。

――私自身はリアルタイムにギリギリ間に合わなかった世代なのですが、ティガはいつの時代でも愛されていて、新しいファンを獲得し続けている印象があります。

丸山 それはありがたいことですね。「ティガは平成の初代ウルトラマン」と皆さんから言っていただくこともあって、そう呼ばれるのはすごくうれしいです。

――『ティガ』のキャラクターデザインについて伺えればと思います。そもそも参加された経緯としては、最初にウルトラマンのデザインを手がけられた「ウルトラマンネオス」からの流れだったと伺いました。

丸山 当時はアルバイトとして円谷プロのイベント事業部で働いていて、そこで新しいヒーローを生み出そうという話になり、「ネオス」の企画が立ち上がったのです。結構軽い感じで「描いてみるか？」と言われたのですが（笑）、それがデザインを描くきっかけになりました。そこに登場するウルトラセブン21は全身を描いたのですが、ウルトラマンネオスは実現しなかった中国が舞台になる映画の企画でマスクが先に作られていて、描いたのは首から下だけ。高野宏一さん*1から「これを使え」と言われたら、お断りできないじゃないですか（笑）。「ネオス」はイベントと雑誌での誌面展開をやりながら、テレビ番組につなげられるといいなという方向でやっていて、一度テレビ局に営業もかけていたのですが、結局頓挫してしまって。それであらためて企画を立てたのが、「ティガ」につながったというわけです。

――過去のインタビューによれば、丸山さんに「ティガ」のキャラクターデザインを依頼したのが高野さんだったとのことですが。

丸山 そうですね。映像に関してほとんど素人だった当時の自分にとって、高野さんの影響はとても大きくて、いろいろ勉強させていただきました。高野さんが「デザインをやってくれ」と言ってくれなかったら、今の自分はなかったと思います。この世界に引き込んでくれた、本当にかけがえのない恩人ですね。

――『ティガ』は当初、"原始人ウルトラマン"という企画コンセプトだったそうですね。

ウルトラマンネオス（パイロット版）の決定稿　ウルトラセブン21（パイロット版）の決定稿

ウルトラマンティガ初稿 A-TYPE

「皆さんが大切にしてきたウルトラマンの記憶に、ほんの少しでも新しい思い出を加えることができたなら」

丸山 ええ。もう詳しくは覚えていないのですが、古代のウルトラマンが現代にワープしてきて、その成長を描くドラマという内容でした。そうでしたよね、渋谷さん*2？

円谷プロ・渋谷浩康 はい。正式には『世界初ウルトラマン』というタイトルの企画でした。M78星雲からウルトラマンがやってくるというそれまでの世界観とは異なり、ウルトラマンが来たことがない世界にちょっとワイルドなウルトラマンが現れて、我々が知っているようなウルトラマンになっていく過程を描写しようと考えていました。

丸山 企画の内容を受けて、黒色から成長とともに赤色が増えていき、最終的には赤一色のウルトラマンになるデザインや、最初は付いていたプロテクターが肉体改造されて徐々に外れていくデザインを提案しました。出した時点で企画の内容は完全に変わっていましたが、色が変わるウルトラマンという案が採用されて、ティガのベースになったのです。

――それがタイプチェンジの原型になったわけですね。

丸山 自分の計画では1クールごとに色が変わっていくというコンセプトだったのですが、玩具の商品展開的にそれは難しいという話が出てきまして。それでバンダイさんから「3分間の間に体の色が変わるのはどうだろう」という提案があり、「それは良いね」ということで、今の形になりました。

――ティガのデザインを考える中で、丸山さんが特に皆心した部分はどこですか？

丸山 やっぱりマスクですね。見る角度によって表情が変わるので、筋土原型だけでなくポリの原型も見ましたし、それをバンダイへ持って行って、村上克司さん*3のご意見を伺いながらいろいろと調整しました。

――ティガのマスクは、頭頂部にくぼみがあることが大きな特徴です。

丸山 中央にトサカがついて四角い耳が出っ張っているという、ウルトラマンやネオスのような卵型をベースにしたシルエットからは、絶対に変えたいと思っていました。それでトサカは富士山の頂みたいな流れで付けていて、耳は上の部分は出っ張って下は肉に従ってアゴにつながっていく、というデザインにしています。あと、ウルトラマンは頭の上の部分が照明の反射で飛んでしまうのです。立体的な形にしておけばそれを防げるのではないかと思い、自分でひな形を作って確認しながら考えていきました。

――ティガの誕生でいわゆるウルトラマンタイプ、ウルトラセブンタイプのマスクとは違う、新しい潮流が生まれた感覚があります。

丸山 ウルトラマンには全部かなわないですけどね。ウルトラマンネオス、ウルトラセブン21のときは予算や時間の問題で「ウルトラマンとセブンをベースに造形できるように」という指示があったのですが、ティガでは多少自分の色を出せた気がします。

――ティガは銀、赤、青紫の配色の美しさも印象的です。色使いについては、どのように考えていたのですか？

丸山 頭に浮かんだものを描いただけで、特別に意識したことはないのですが、見る角度によって色のバランスが変わるようにしたいとは思っていました。ティガの側面は、ほぼ青紫なんですよ。

――たしかに。どの角度から見るかで、どの色が際立つのかを意識されていたんですね。

ウルトラマンティガ（マルチタイプ）決定稿　ウルトラマンティガ（スカイタイプ）決定稿　ウルトラマンティガ（パワータイプ）決定稿

60　61

特別インタビューにはデザイナーの丸山 浩氏が登場します。

■本書に収録された写真をベースにしたTシャツも発売！

写真集の販売に合わせて「マルチタイプ」「スカイタイプ」「パワータイプ」、そして「VSイーヴィルティガ」の4種類のTシャツが登場します。各デザインともS/M/L/XL/XXLの5サイズを用意。価格はそれぞれ4,950円（税込）です。出版社のコンテンツを活用した“オンデマンドプリントTシャツモール”、pTa. shop（https://p-t-a. shop/）で11月27日（金）から販売します。



■本書の構成

ウルトラマンティガ Special Gallery
ウルトラマンティガ キャラクター紹介
ウルトラマンティガ30thプレミアムステージ レポート
キャラクターデザインを担当した丸山 浩氏特別インタビュー
ウルトラマンティガ 全52話の軌跡

■書誌情報



書名：ウルトラマンティガ 30th Anniversary Memorial Photo Book
著者：中西 学
発売日：2026年11月27日（金）
ページ数：96ページ
サイズ：B5版
定価：3,300円（本体3,000円＋税10%）

ISBN：978-4-295- 026013
◇Amazonの書籍情報ページ：
https://www.amazon.co.jp/dp/4295026018/
◇インプレスの書籍情報ページ：
https://book.impress.co.jp/books/1126101046

■著者プロフィール

中西 学（なかにし・まなぶ）

1976年、岡山県生まれ。独学で写真を始める。円谷プロダクション関連の撮影を多数手掛ける。ウルトラマン関連の写真展に「Inheritance」（富士フイルムイメージングプラザ 東京）、「55 years of ULTRASEVEN Inheritance」（富士フイルムフォトサロン 東京）、著書に『ウルトラマンゼロ 15th Anniversary Memorial Photo Book Beyond the STARS』（インプレス刊）などがある。

以上

【株式会社インプレス】 https://www.impress.co.jp/
シリーズ累計 8,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、デザイン・グラフィック関連の書籍ブランド「MdN」、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT・デザイン関連出版メディア事業、およびデジタルメディア＆サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】https://www.impressholdings.com/
株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】
株式会社インプレス　広報担当：丸山
E-mail: pr-info@impress.co.jp URL： https://www.impress.co.jp/